

なにをする？

この3か月間、「うわあ、いつもと違うってきついなあ」って思った人、多いと思います。家ででの過ごし方も、友達との遊び方も、まったく違うものになったよね。学校での過ごし方も、いつもと変わる。

まだ生徒の立場だったとき、「いつもと違う1年間」を過ごしたことがあります。通っていた学校の文化祭の委員長だったのに、「今年中止かもしれないね」と先生たちに言われてしまい、ほうぜん。だって、いつもと違うから…。このままだと開催できなくなってしまうと悩んでいた私に、声をかけてくれた友達がいました。

「ねえ、今しかできないことを提案したら？」



できないことばかりに目が向いていたけれど、なるほど、逆に今だからこそできることを探してみたら、先生たちにも納得してもらえるかも知れない…。そこからは文化祭を1から作る作業でした。毎日放課後ぎりぎりまで話し合い続けました。でも、とっても楽しかった！結果、文化祭は大成功！その年ならではの取り組みは、先生たちだけじゃなく、たくさんの人に「よかった！」と言ってもらえました。

この先どうなるか、不安なこともあると思います。でも、いつもと違う、だからこそできることを、みんなとやってみたいとも思っています。この1年の仲間と会えるのを楽しみにしています！【G】

2020 プレイリスト

今週も前回に続き、『今』だからこそ聴いてほしい曲の紹介をしていこうと思います。前回の7曲は、自由時間などそれぞれの時間で聴いてみてくれたでしょうか。それでは、5月のプレイリストの続きをどうぞ♪

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| ⑧Mrs. GREEN APPLE | 「点描の歌 feat. 井上苑子」 |
| ⑨コブクロ | 「未来」 |
| ⑩清水翔太 | 「DREAM」 |
| ⑪bank band with Salyu | 「to U」 |
| ⑫森山 直太郎 | 「花」 |



ゆっくりした時間の中で、曲を聴きながら、歌詞を目で追っていくと、今の自分やこれからの自分を考えると響く言葉があり、メロディーと一緒に、心に訴えてくるものがあります。学校が再開したら、曲の感想等の話がしたいですね。楽しみです。収束後に本気で歌ってくれる人、募集します笑 【O】

6年生の皆さんへ④

いよいよ！始まりの6月へ！

長距離走の思い出

今から〇〇年前。小学生の頃、陸上クラブに入っていました。活動内容は毎回、走る、走る、走る、ただひたすら走る…。

普段は校庭で、50mや100mの短距離走。時々、町内一周の長距離走もやりました。



これがかなりの距離な上、校庭と違って道は平たんではなく、途中とてつもない上り坂もあったりして、ものすごくしんどかったです。

それでも、個人的には、長距離走の方が楽しかったし、好きでした。

でこぼこ道やきついうり坂があっても、そこで派手に転んでしまっても、最後まで止まらずに進み続ける気持ちの強さがあれば、後でいくらかでも取り返すことができる――。

単純な運動神経だけでなく、そんな気持ちの持ちよう次第で、記録を伸ばせる余地が短距離走と比べると大きいように感じていました。また、いろんな景色が移り変わっていくのを見るのが、単純に楽しいとも思えました。楽しさに気づくと、つらい気持ちも少し和らぐような気もしていました。

人生は、長距離走に少し似ているのかもしれない。

長い休みの間、近所のランニングコースを走りながら、当時のことを思い出して、そんなことを考えました。(久しぶりに走ったので、筋肉痛がすごかった～汗)

いよいよ、6年生の生活が始まりますね。小学校生活のゴールテープを笑顔で切れるように、楽しみながら一緒に進んでいこう！【I】

銅メダリストの心で

突然ですが、質問です。銀メダルと銅メダル。あなたがオリンピックに出たとして、どちらの色が欲しいですか。



アメリカの科学者の面白い研究があります。それによると、「銅メダリストの方が、銀メダリストより幸せに感じている」というのです。今から約30年前、バルセロナオリンピックがありました。その時の銀メダリストと銅メダリストの幸福度を調べたのです。その結果、試合終了の瞬間の幸福度は、銀メダリストが10点満点中4.8点、銅メダリストが7.1点でした。そして、表彰式の間も、銅メダリストの方が幸福度が高いままでした。

なぜ、こんなことが起きるのでしょうか。研究によれば、銀メダリストは、「あとちょっとで金メダルだったのに…」と後悔しているのです。一方、銅メダリストは、「なんとかメダルを取れた！」と達成感にひたっています。だから、幸せ度は銅メダリストの方が高いのです。

今あるものに感謝する。6月からようやく、始まる学校。分散登校、給食もまだ先、やれないこともたくさんある。それでも、「ついに、みんなに会える。6年生と一緒に、スタートできる。」という銅メダリストの心で、みんなに会える瞬間を楽しみに待っています。【S】